

# わが校自慢

## 篠津小学校

本校は、明治6年5月9日篠津、白岡、小久喜、寺塚、野牛、樋ノ口、原、除堀の八か村を以て組合を組織し、篠津高台の弥陀堂を仮校舎として開校された歴史のある学校です。校長室には、篠津尋常小学校初代校長の荻野重三郎先生の掛け軸があります。また当時始業の合図に使用した鐘が保存してあります。その後町村合併や西小、白岡東小が分離し現在の篠津小になりました。

「温故知新」よき伝統を継承するとともに創意と工夫に満ちた特色ある教育を展開し、「生きる力」を育み、「児童が 保護者が 地域が 教師が 誇れる おらが学校」を目指しています。

具体的には、毎月17日を俳句の日として、全校児童が俳句の創作活動に取り組んでいます。よい作品を選び児童・保護者に配布しています。年度末には句集を作成しています。一般からの俳句募集にも投稿し、多数入賞しています。このことにより自然や身の回りの生活を見つめ直し、表現力や思考力そして豊かな心の育成を図っています。



篠津尋常小学校初代校長の荻野三郎先生の掛け軸



当時始業の合図に使用した鐘

また、本年度は「教育に関する3つの達成目標」を受けて、小学校で学習する漢字を34段階に分けたテスト問題「篠っこ漢字検定」に取り組み学力の向上を図っています。「体力向上」では、「体力向上目標値」の設定や、のびのびタイム・あおぞらタイム等でその達成に取り組んでいます。「規律ある態度」では「生活チェックカード」により手洗い、靴の整頓、持ち物の整理整頓等の実践に努めています。

### 訂正とお詫び

広報しらかが1月号裏表紙のわが校自慢の中で、学校名に誤りがありましたので訂正し、お詫びいたします。

誤 菁莪中学校

正 菁莪小学校

—白岡の古道をゆく vol.11—

## 八幡道

ふるさと

## 白岡紀行

西2丁目付近は区画整理以前は「実丁野」と呼ばれ、その元荒川沿いに大柳と呼ばれる場所があった。かつて、蓮田と白岡の境に植えられていた柳の大木に由来するという。その一角に馬頭観世音の浮彫坐像が刻まれた駒角柱が立っている。宝暦5年(1755)の銘を持ち、正面に「南原市道/北八幡道」とある。

町内に残されている道標の多くが、南西方面の行き先として「原市」を指す。大山区には桶川を示すものが少数あるが、その他はほぼ原市である。原市への経済的依存度の高さの現れだろうか。それとも駅の行先表示が隣接する駅を示すような感覚だろうか。北西方向では菖蒲の先の鴻巣も頻繁に出てくるのだが…。大柳から原市へは、元荒川伝いに南下し現在の今宮橋付近で渡河し、伊奈町小室を経て原市へ向かうルートが想定されるという。

さて「北八幡道」であるが、元荒川を遡ると程なく八幡橋へ至る。橋が架けられた大正12年以前は「八幡の渡し」という渡船場であった。元荒川を渡り、蓮田市閘戸を経て鴻巣方面へ向かう道筋として使われたようである。井沼から南下すればここからも原市へ行くことができる。「八幡道」は、この「八幡の渡し」を経由する道筋全体を指すとも捉えられるが、ここでは、



「南原市道」「北八幡道」の文字が読みとれる



元荒川の土手近くに立つ馬頭観音

狭義の白岡八幡宮の参詣道と捉えておきたい。信仰の対象としての白岡八幡宮が道しるべに現れた唯一の事例として、また集落のない元荒川沿いの自然堤防が道として機能していたことを今に伝える事例として貴重である。

暦の上では春を迎える。梅の香りに誘われて早春の川辺の道を訪ねてみてはいかがだろうか。